



市が新たに設立認証したNPO法人を紹介します！

特定非営利活動法人 くらしとすまい フロティゴ

★活動目的

生活にお困りの方、住居探しについてお困りの方に対して、あらゆる分野の生活相談を承ります。住居を確保した後も、関係各機関や行政、各種専門家との連携を通じた生活支援を行います。また、利用者やご家族の社会的な孤立を防ぎ、誰もが安心して、健康で文化的な暮らしをすることができる社会を創造します。

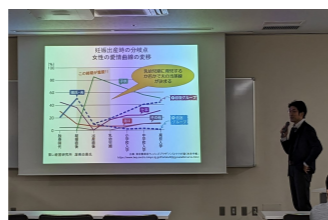
★認証日 令和5年11月30日

【NPO法人の皆様へ】

NPO法人は、毎事業年度初めの3か月以内に、「事業報告書」等を所轄庁に提出しなければなりません。また、役員任期満了や住所等が変わった際は、役員変更等届出書等の提出が必要です。忘れずに提出しましょう。

「令和のパパを学ぶ！子育て応援セミナー」を開催しました

市（男女共同参画推進室）ととりおか女性センターは、令和5年12月10日（日）に市中央公民館で「令和のパパを学ぶ！子育て応援セミナー」を開催しました。



講演会（講師：塚越学氏）では、これからパパになる方や既にパパである方に向けて、昭和と現在の子育ての違い（今は共働き世帯が大多数。父母が共に、稼ぎ手役割・世話役割・教育役割を行う必要があること）や、育児介護休業法が改正され、会社は対象となる男性に対し、育児休業制度を周知し、取得の意向を確認する義務があることなど、お話がありました。

男性の家事育児参加は女性の社会参加や社会全体の働き方にも大きく影響しています。性別による役割分担意識をなくし、地域みんなで子育てや家事に励むパパを応援しましょう！

市民協働推進センターを知ろう！ 都南公民館編



町内会・自治会、NPO法人等の地域活動や市民協働を支援するために設置している市民協働推進センター。今回は、都南公民館を紹介します！

市民協働推進センターとは？

地域活動、NPO活動、市民活動に取り組む団体の支援のため、市内6館の公民館（中央・上田・西部・河南・都南・渋民）に設置している拠点です。

都南公民館から一言！



都南公民館では、子育て世代を応援する事業の充実を図るなど、現代的・社会的課題に対応した学習機会の提供に努めています。また、地域活動での困りごと等ございましたら、担当課へつなぎ一緒に考えてまいりますので、お気軽にご相談ください。

イベント情報

公民館では、生活に役立つ様々な講座を企画をしています。

今年度は、令和4年11月に永井の大念仏剣舞がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを受け、「となんの地元学～永井の大念仏剣舞」を開催。保存会の協力のもと、受講生が8月から10月まで全10回の練習を行い、その成果を10月22日（日）の公民館まつりにおいて発表し、観客から賞賛を受けました。

今後も、都南公民館では魅力的な講座を各種企画しています。お気軽にご参加ください。



各種講座案内はこちらから！

回																			
覧																			



発行：盛岡市市民部市民協働推進課

〒020-8530 盛岡市内丸12-2
TEL：019-626-7535（直通）

（令和6年2月発行）

働き世代と町内会の人々をつなぐためには



令和5年度「地域活動担い手養成講座」の概要をご紹介します。市は、地域活動に様々な世代や人材が参画することを目標に、必要な知識や技術を学ぶ場として同講座を開催しています。今年度は「働き世代と町内会の人々をつなぐためには」をテーマに町内会・自治会の方々をお迎えし、令和5年12月16日（土）に、パネルディスカッションを行いました。市公式YouTubeには、紙面で紹介しきれなかったエピソードも収録していますので、併せてご覧ください。



広報ID：1046973

出演者 (敬称略)	司会 まぐち ひろし 菊地 洋	岩手大学 教育学部 准教授	パネリスト③ やえがし しょうじ 八重樫 章司	長橋町自治会 会長
	パネリスト① そうま ひろし 相馬 宏	北山自治会 会長	パネリスト④ じん れおな 神 玲於奈	長橋町自治会 青年部長
	パネリスト② こもり けんじ 小森 賢司	北山自治会 成年部	オブザーバー	盛岡市

注）動画は予告なく削除される場合があります。興味のある方はお早目にご覧下さい。

なぜ地域活動に参加しにくいのか？



司会
菊地 洋さん

菊地：今日は、青年部の方々にお越しいただいております。地域活動に参加する前と後での印象や思いについてお話しいただけますか？

小森：親が地域活動を頑張っていました。私自身は就職後も盛岡を離れていたため、全く町内会活動を意識していませんでした。地域活動に参加したのは、親の介護が明けて、ようやく時間ができたからです。今まで参加していなかったの、これまでの皆さんの仕事を引き継がなければならない状態です。

神：自分とは少し関係がなく、やりたい人がやっているイメージでした。地域活動に参加したきっかけは、前自治会長から「ぜひ青年部を作って長橋町を盛り上げてほしい」と言われたこと。発起人として青年部を立ち上げ、青年部長となり、6年、7年が経ちます。人数は増えませんが、手伝ってくれる仲間がいるので、すごく助かっています。

菊地：実際には、地域活動に参加できていない方が多々おられると思います。理由につきまして、何か言えることがあれば、それぞれの自治会からお話をお聞かせください。

八重樫：長橋町自治会では、「ちびっこチュンチュン隊」という子供たちの歌の会があります。行事や練習の際にお母さんが来て、参加してつながりができて良かったという声がある。参加できていない方が多い状況について、私の考えでは、魅力のあるイベントが少ないのではと思っています。学校や若い世代と連携を取って魅力あるものをやり、周知方法を工夫して、働き世代を呼び込んでいきたいと考えております。

菊地：地域のことを子供たちに理解してもらうことも重要だと思います。町内清掃とか学校のボランティア活動を通して、町内会・自治会の活動に参加するのはどうでしょうか？

八重樫：子供たちと一緒に保護者の方に来てもらうなど、大人も一緒に活動に参加させるようにできたらいいなというふうには考えております。



長橋町自治会
八重樫 章司さん

働き世代の地域活動への参加を促すために



北山自治会
相馬 宏さん

菊地：子ども会の参加を通じて若い子育て世代の参加を促すなど、地域活動に参加するきっかけについてはどのようにお考えでしょうか。

相馬：やっぱり次の時代を担う子どもたちですので、まず自分の育ったところが楽しかったな、良い環境だったな、そういう思い出をいっぱい作ってもらいたいですね。それがやがて地元に住んでもらう。あるいは地元で働いてもらう、そういう人たちが出てくるのではないかなという思いをしております。子ども会と連携をとりますと、お父さん、お母さんと連携がとれる。ぜひ子ども会を大事にしながら、いろんな行事を考えていきたいと思っております。

菊地：働き世代を地域に呼び込みたいと考える場合、実際にはどんな事が有効なのか、感じていることはありますか。

小森：うちの町内会では、町内会長自身が参加の声掛けをしています。ただ単に声をかけるのではなく、雪除けとかちょっとした仕事を依頼しています。私自身も、町内会長からの声かけで参加するようになりました。町内会の役員さんとか子供さんたちにぜひ参加してくれるように呼び掛けて、それが今だんだん広がっています。また、地域ではPTAや学校のお母さんたちが大活躍しています。



北山自治会
小森 賢司さん

まとめ ～働き世代と地域をつなぐためには～

菊地：子供たちにまず町内会に参加してもらうことによって、親の世代もしくはPTAとかが一緒になって連携していくということが、一つ有効だという話がありました。これまでの話を踏まえて、いかがですか？

八重樫：うちの自治会の盆踊り大会では、総合司会や縁日を生徒さんに主体となってやってもらっています。その後に学校に「参加していただき、とても良かった」と伝えたいです。すると学校の校内広報の中で、地域の声として伝えていただいたんです。やはり学校と連携をとって、町内会の活動にもっと入ってもらうのが私はいいかんと思っております。

神：働き世代の方って僕もそうですけど、家族のことが最優先。地域活動っていうのはどこか他人事な感じがするんですけど、僕も長橋町に住んで思うのが、隣近所の方がわからなくて、関係性が希薄で、そこで一生暮らしていくのに、例えば年をとったときに自分が困った時どうすればいいんだろうっていうこと。今、僕たちは困ったときにスマホやネットで調べられるんですけど、多分これから10年、20年経つてくると僕たちも取り残されると思うんですよ。地域でつながっていれば、困ったときはやっぱりお互い様だと思うので、そこをどう認知してもらって、自治会の必要性を感じてもらえるのか、それが課題です。

相馬：働いてる方々ってやっぱり時間がなかなか難しいと思います。例えば除雪についても、「この時間帯なら手伝えるよ」という方が結構いる。北山自治会では、成年部を青年ではなく成年と書く。「自分は若いんだ！何かやりたいんだ」という情熱があれば、私は青年だと思う。新しく成年部に入ってくださった方も、勤務的に時間があればやりますと言ってくださっている。役員だから毎日出てこいとか毎回出てこいではなく、やれるときに来て、できることをしてもらえればそれでよい。そういった中で仲間づくりしていくことが大事かなって、私は思います。

小森：やっぱり近隣との関係性が大切だと思います。地域活動に加わるということは、町内のみんなの輪に加わるということ。私自身、介護生活を送っている中で、町内会の方が声をかけたり助けてくださったりする。地域活動を通じて、町内みんなの人の輪ができていく形になるのがいいのかなと思います。



最後に ～パネリストから～

相馬：最近非常にプライバシーという言葉が強く出てきて、隣近所でも一体何している人かわからないという方が増えている。民生委員の活動をする中で盛んに言ってきたのが、

「きんじょ近助」で近くで助けると書くこと。隣組で助け合う、それが大事じゃないかと思う。

小森：自治会活動に参加するなら、早い方がいいし、絶対楽です。

八重樫：実は私も役員になる前は自治会活動に参加していなかったです。実際、会長、三役になった時に思ったのが、知り合いがどんどん増えていくということ。参加したことによって、隣近所だけではなく、気楽に声をかけられる人が増えたのが良かったと思う。相馬さんから話があったように、毎回自治会活動に出てこなくてもいいと思います。自分がやれるとき、子供さんたちが参加したいと言うのであれば、じゃあ一緒に参加してみようかと思ってもらえれば。そして参加してみて、あ、これなんか面白そうだなと思ってもらえれば、自治会、役員の担当が多くなるのかなあと思います。

神：実際にやってみると、本当に人ってなかなか集まってくれなくて、どうしようかなと思うことがある。例えば、今日みたいに同じ悩みをシェアして、情報交換できるような、こういうディスカッションみたいな場を定期的につくっていければ、もっとよくなるのではないかなと感じました。今日はありがとうございました。



長橋町自治会
神 玲於奈さん

